

# 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

自分らしさってなんだろう。

見つけているなら、大事に大事に育てていこう。

分からないなら、これが

ここでの学びが、きっと

## 【専修大学北上高等学校】

### 普通科

専大北上。私らしさを咲かせる場所。

## ディープラーニングコース

## アクティブラーニングコース

### 活動概要

管理機関名：学校法人北上学園

#### CONTENTS

- 2-3 Introduction
- 4-5 新校舎新築
- 6-11 専大北上の「新しい学び」
- 12-13 各コースの変更・学校全体像紹介
- 14-15 普通科 ディープラーニングコース
- 16-17 普通科 アクティブラーニングコース
- 18-19 グローバルビジネス科
- 20-21 自動車科
- 22-23 進路&専修大学・高大連携
- 24-25 在校生メッセージ
- 26-27 学校紹介
- 28-29 生活紹介（イベント等）
- 30-31 入試情報
- 32 入学金
- 33 私学補助金紹介
- 34-35 沿革・ポリシー・学校所在地

## 本補助事業の目的

本校の新しい普通科のキーワードは「未来を創る力」です。

これからの未来、気候変動、地域の人口減少、グローバル化、新しい産業技術による働き方・暮らし方の変化、国際情勢の不安、様々なウィルス等の公衆衛生的不安など、多くの未知が生まれてくることが予想されます。

この大きく変化する社会の中で、これまでの経験・得た知識、そしてこれから学びたいことをつなぎあわせ、未知に対して向き合い、納得解をつくることのできる力を「未来を創る力」と定義します。

本校では、新時代に対応した高等学校改革推進事業において、この「未来を創る力」を育む基盤を構築することを目的として、地域の様々なステークホルダーの皆さま、そして専門的な研究機関の皆さまと協働で構築していきます。

### <取り組み内容>

取り組み①: 高校職員研修における対話の場・学びの場づくり

取り組み②: DLコースおよびALコース各専攻におけるカリキュラム開発

取り組み③: DXによる学びの深化と負担軽減(本校独自事業)

# 専北の「学び」 3つの柱 ～未来を創る力へ～

## ダイバーシティ ラーニング

多様な視点・それぞれの  
ちがいを大切にした学び

## アクティブ ラーニング

学ぶことそのものを楽しみ  
豊かな出会いの中で  
前向きにチャレンジする学び

## ディープ ラーニング

自らが課題の本質を見出し、  
解決に向けた具体的な行動に  
つながる学び

「自分らしい進路の実現」に向け、**科名・コース・専攻** が変わります

2022年度入学生から

1年生

2年生

3年生

2021年度  
入学まで

普通科

普通科

ディープ  
ラーニング  
コース  
(DL)

学問探究専攻

PBL専攻

アクティブ  
ラーニング  
コース  
(AL)

福祉・保育・  
幼児教育専攻

情報ビジネス専攻

スポーツ専攻

商業科

グローバルビジネス科

自動車科

自動車科

どの科・コースからも  
選択できる  
「自分らしい進路」の  
実現

高校での  
学びを活かした  
大学進学

専修大学  
石巻専修大学  
附属高推薦  
での進学

北上福祉  
教育専門学校  
へ進学・  
専門職の道へ

高校で得た  
知識をさらに  
深めるために  
専門学校へ

実践的な学び  
と経験をもとに  
ビジネスの道へ

高校で培った  
知識・技術を  
もとに即戦力の  
エンジニアへ



## 取り組み①：高校職員研修における対話の場・学びの場づくり

研修①「主体的な学び」を考える

研修②「主体的な学びと部活動改革」

研修③「授業改善の実践状況・次に向けた視点とは」

研修④「生徒の主体的な学びに向けた業務改善」

研修⑤「主体的な学びと部活の関係を考える」

研修⑥「学校改革に向き合うとは」

研修⑦「授業評価を考える」

研修⑧「学校改革と伝える技術・プレゼンテーション」

研修⑨「デジタルツールを活用した業務改善」

研修⑩「シラバスを活用した主体的な学びの推進」

研修⑪「主体的な学びとデジタルツールの活用」



# 取り組み①：「なぜ学ぶか」「どう学ぶか」の共有

校長による改革宣言  
(みんなで改革を進めていくという方向性の共有)

改革の軸となる理念の共有  
「アドミッション・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」  
「カリキュラム・ポリシー」

理念実現に向けたアクションプラン策定

普通科コース改革

新課程に基づく  
カリキュラム構築

ルーブリックの考え方を  
活かした8つの力の定義

各教科・科目における  
評価体系の検討

各教科・活動での実践

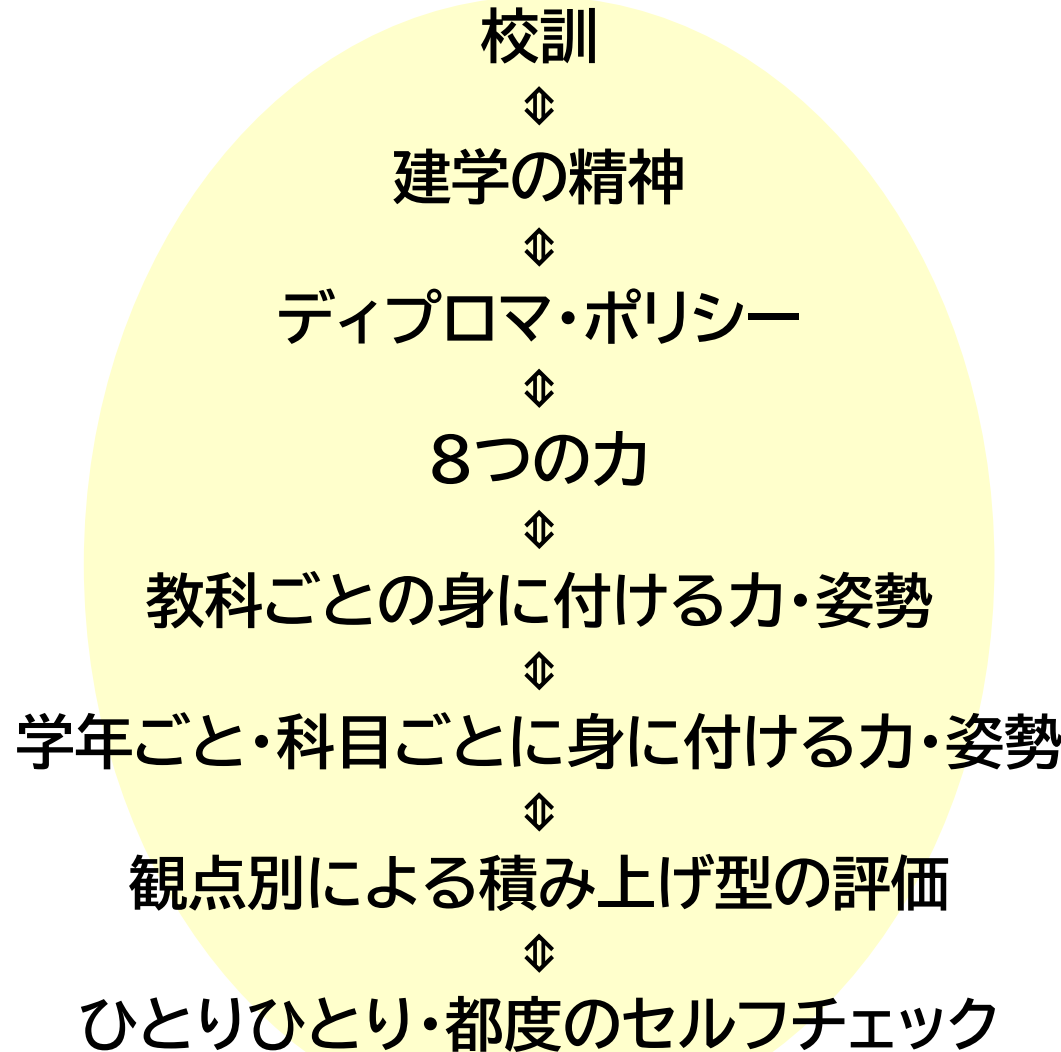
建学の精神	校訓	ディプロマ ポリシー	8
報恩奉仕 社会から得られる様々な恩恵に対し、感謝するとともにその真理を追究すること 育った環境に感謝し、培った自己の能力を社会に奉仕・還元しようとする	質実剛健 飾りがなく、まじめで強くたくましい姿 他者とのやりとりの中で、自己を知り、飾らず素朴・素直な姿勢で自他の幸福のために強くたくましく生きる姿	健全な心身のもと、自分の資質をより伸ばそうとする力	自律 チャレンジ
		多様なちがいを尊重し、誰とでも繋がれる力	寛容性 コミュニケーション
	誠実力行 まじめに目標に向かって努力し続ける姿	将来の夢の実現に向け、深く考え行動できる力	思考力 創造力
	変化の激しいこれからの社会の中で、自己の使命を理解し、前向きによりよく生きようとする力	地域、そして世界の様々な課題に対して、常に当事者意識を持ち、解決に向けて向き合う力	社会に対する当事者性 地域・世界の課題に関する知識・理解



令和4年度 シラバス 「科目名」 ※あくまで科目ごとに設定 授業時間配分・共有できるように

教科 科目	学 年	教科書	教科書 副教材
CDPに基づく「8教科」で身に付ける能力・態度 ※ (前) 卒業時までに身に付けてほしい (後) 学校としての考え 8つの力 AA. こうせいは素晴らしい C. 必ず習得すべき事項			
この科目 (前) このシートより(後) 2) における到達点(学習目標)			
知識 技能	思考 判断 表現	主体的 学習姿勢	
この科目の学習方法 ※ 両者がわかるように			
授業に おける 学習方法	事前・ 事後学習 自己学習		
この科目における評価方法 ※ 3 観点の評価を評価できる方法を明確化する 【評価に与える評価】 ※ 学期評価は各学期の平均値とする			
知識 技能	思考 判断 表現	主体的 学習姿勢	
評価 項目	評価 項目	評価 項目	合計
(例) 知識のテスト ○ 成績点×0.5	(例) 思考テストの点数 ○ 成績点×0.5	(例) 1. 授業・学習態度 ○ 2. 態度・4. 態度 ○ 0.5	点
(例) ○○○○○○を評価 ○ 成績点×0.5	(例) ○○○○○○を評価 ○ 成績点×0.5	(例) 態度でめぐる力かたの力を評価 ○ 成績点×0.5	点 100点
(例) 態度でめぐる力かたの力を評価 ○ 成績点×0.5			点

評定：7.5点以上=5 7.4~6.5点=4 6.4~4.5点=3 4.4~4.0点=2 3.9点未満=1  
各観点別評定：各項目の75%以上の得点=A 同74%~45%=B 44%未満=C



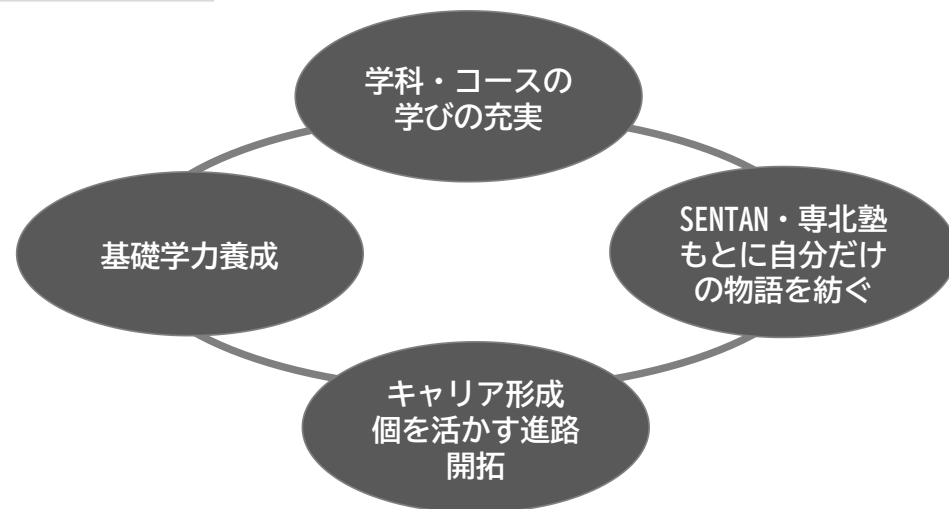
## 取り組み②：DLコースおよびALコース各専攻におけるカリキュラム開発

- ・DLコースPBL専攻は、21世紀教育機構の石川一郎さんをメンターに、自らの学びを掘り下げ、それをもとに地域や世界の課題の解決につなげていく具体的なカリキュラムを構築しました。
- ・DLコース学問探究専攻は、(株)ベネッセコーポレーション東北支社長の張乙清さんをメンターに、学際的視点に基づき、各教科の学びと社会をつなげられるカリキュラムの構築に向けた新しい評価体制の構築を行いました。
- ・ALコース福祉・保育・幼児教育専攻では、本校ソーシャルワーカーで地域福祉の現場での活動も多い一般社団法人かな社会事業事務所所長の高橋岳志さんにメンターをお願いし、地域福祉の実践者を講師に地域に根差した実践的なカリキュラムの構築を行いました。
- ・ALコース情報ビジネスコースでは、石巻専修大学経営学部教授の李東勲さんをメンターに、本校グローバルビジネス科教員が担当しながら、地域社会での課題に対応できる実践的なカリキュラムの構築を行いました。
- ・ALコーススポーツ専攻では、専修大学法学部教授の吉田清司さんをメンターとして、専修大学スポーツ研究所と連携し、スポーツ理論の基礎を学ぶとともに、総合型地域スポーツクラブSVきたかみと連携し、その知識を地域での実践につなげるカリキュラムの構築を行いました。
- ・これら5つの専攻での学びを共有し、つなげる時間としての、総合的な探究の時間「SENTAN」を年間を通して進めることで、グローバルビジネス科、自動車科を含め、多様な知とふれ、その中で自分の学びを深める体制の構築を行いました。

# 普通科DLコース 学問探究専攻

## ○この専攻の学びの特徴

- ・「学向力」を高めるために、「目標設定⇒計画⇒実行⇒振り返り・修正」のサイクルを確立します。
- ・「学力養成」に向けた、学力診断と日々の学びをつなげ、上級学校への推薦等、それぞれの進路に対応した力が身につく仕組みを構築します。
- ・長期休業中には、専北塾アカデミー開講を開講し、集中的な学びの機会をつくります。
- ・「視野拡大&思考力・表現力の育成」に向けて、レクチャー（インプット）ー思考ー意見交換（アウトプット）のサイクルをそれぞれの教科で実践します。



## ○教科・科目概要

2年生	3年生
以下の科目を必修として設置します（※PBLとの比較） <ul style="list-style-type: none"> <li>・文学国語 1単位</li> <li>・数学B 2単位</li> <li>・英語実践 1単位</li> </ul>	文理選択により、それぞれの希望する進路に対応した学びの実践を行います。※以下選択例 <ul style="list-style-type: none"> <li>文系（文学国語2単位・理科探究2単位） or 理系（化学4単位）</li> <li>文系（政治経済2単位・地歴探究2単位） or 理系（物理4単位）</li> <li>文系（数学演習3単位） or 理系（数学Ⅲ3単位）</li> </ul>

## ○より実践的な学び・より深い学びにするための取り組み

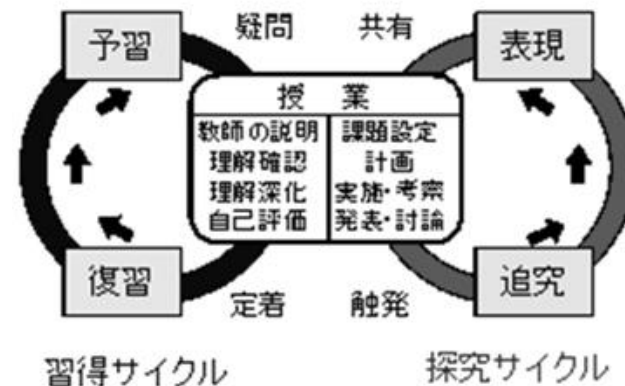
- ・3レベル（基礎・標準・発展）ごとのTODO CANDUを明記した学期シラバスに基づく学習を進めます。  
（7教科 国・数・英・地・公・理）
- ・石巻専修大学と連携するなどして、発展・横断型授業の実施します。  
（各学期ごと単位数分の時間 例4単位 1学期4時間）
- ・各教科とも学期ごと小論文1本を必修とし、評価対象とします。  
（各教科での学びを体系化し、言語化する力を高めていきます。）
- ・共通テスト受験を基本必修とし、3年学年末考査を共通テストに置き換えます。



# 普通科DLコース PBL専攻

## ○この専攻の学びの特徴

- ・専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力である「社会知性」(Socio-Intelligence)を高めることを目的としています。
- ・PBLとは「Project Based Learning」の略で、課題解決型学習と訳されることもあります。学習者自らが課題を見つけ、様々な先行研究での結果、調査、実験、地域・社会での実践等を組み合わせながら答えを構築していく学び方です。
- ・この学びを通して、ルーブリックに基づき、具体的に「課題発見力」「課題解決力」「知的忍耐力」「人間性」「国際性」の5項目の力を伸ばしていきます。



## ○教科・科目概要

2年生		3年生	
Socio IA (3単位)	ラーニングスキル、情報リテラシー、課題設定、フィールドワーク設計等のPBLの基本的なプロセスを実践の中で学び、自分の探究テーマの輪郭を明確化するとともに、自分らしい学びを実践します。	Socio II (3単位)	卒業研究を進めていくことにより、個人の探究テーマを掘り下げてながら、仮説を設定し、地域・社会をつなぎ、納得解を構築し、その解の共有を行うまでの一連のプロジェクトを完結させます。
Socio IB (1単位)	グループ単位での専修大学SDGsプログラムへの参加により、年間を通しての課題解決型学習の実践します。		
※この他、全校共通の総合的な探究の時間として「SENTAN」を各1単位			

## ○より実践的な学び・より深い学びにするための取り組み

- ・PBL専攻の名前のとおり、ただ教室の中で学ぶだけではなく、フィールドワークや地域・社会でのさまざまな実践、大学などの研究機関との連携をもとに、自分の探究テーマを深めることが世界の未来にどのような意味を持つものであるかを考えていきます。
- ・専修大学SDGsプロジェクトや外部の探究アワードなど、高校の枠を超えたプログラムにも参加し、より多様な学びとつながる機会をつくっていきます。

# 普通科ALコース 福祉・保育・幼児教育専攻

## ○この専攻の学びの特徴

- ・福祉・保育・幼児教育コースでは、高齢者・幼児・障害者について理解を深め、専門的な知識や技術を習得するとともに、福祉や幼児教育の分野の大切さについて考えます。
- ・ノーマライゼーションについて学び、障がいの有無や世代の違いで人を判断することなく、全ての人々が幸せになる世の中を目指します。
- ・全ての人々が幸せになるために、何が課題でどうすれば良いか、施設の見学やインタビュー、体験などの実体験を通して考えます。

## ○教科・科目概要

2年生		3年生	
社会福祉基礎 (2単位)	社会福祉に関する基礎的な知識を学びます ・社会福祉について考えよう ・人間の尊厳と新たな社会福祉の創造 ・高齢者福祉・障害者福祉 等	コミュニケーション技術 (2単位)	社会における福祉の広がり理解し、信頼関係を構築するためのコミュニケーション技術を学びます ・支援における人間関係の形成 ・チームワークとリーダーシップ ・新時代に向けた社会福祉 等
福祉・保育・幼児教育基礎 (2単位)	主に子どもの特徴および周囲の環境についての理解を深めます ・子どもの発達の特徴 ・子どもの生活・衣服・住環境 ・子どもの健康管理 等	福祉・保育・幼児教育発展 (4単位)	保育・幼児教育・子どもの福祉に必要な知識を、実際に子ども達との交流等の現場での学びとつなげ、体系的に理解します ・保育の意義・保育環境 ・子どもの福祉 ・子育て支援 等

## ○より実践的な学び・より深い学びにするための取り組み

- ・この専攻では、座学ばかりではなく、専修大学北上福祉教育専門学校、認定こども園専修大学北上幼稚園、市内の福祉・高齢者施設と連携しながら、より実践的な学びを行います。
- ・特に保育・幼児教育においては、子ども達との食育交流、絵本づくり、幼児用お弁当作りなどを通して、実際に子ども達、そして保育・幼児教育に携わる皆さんとの交流を行うことで、保育・子育て全般の体系的な知識と社会をつなげます。
- ・認知症サポーター養成講座、手話講座など、さまざまなちがいを理解し、それぞれのちがいを尊重していける社会の構築に向けた実体験を積み重ねていくことで、地域福祉を包括的に考える視点を身に着けます。

# 普通科ALコース 情報ビジネス専攻

## ○この専攻の学びの特徴

- ・この専攻では、「ビジネス」という視点で地域・世界がどのような仕組みで構成されているかを理解し、知識と実社会をつなげる学びを実践していきます。
- ・2年生では、実社会でこれまで学んできたこと、経験したことがビジネスの世界でどのように活用できるのかを学びます。そして、実社会で活躍するための情報処理技術を高め、自分のキャリアイメージを構築していきます。
- ・3年生では、マーケティング、グローバル経済など、お金と商品といった「価値交換」がどのように行われ、それが世界とどうつながっているかといった、多様な産業において活用できる知識を学びます。

## ○教科・科目概要

2年生		3年生	
ビジネス基礎 (2単位)	経済そして企業活動を身近な事例から理解するとともに、価値を創出し、交換するというビジネスの基礎を実践的に学びます。 ・ビジネスとは ・経済と流通 ・企業活動 ・ビジネス基礎を踏まえた探究的活動	マーケティング (2単位)	価値の交換プロセスを体系的に学ぶとともに、その学びを実際の企業活動の課題解決につなげます ・市場とマーケティング ・プロモーション戦略 ・地域企業と連携した実践活動
	情報処理 (2単位)	情報Ⅰをさらにビジネスの実践につなげる学びを行います ・企業活動と情報処理 ・コンピューターと情報通信技術 ・WEBページの作成 ・情報の収集・分析	グローバル経済 (2単位)
			情報処理 (2単位)

## ○より実践的な学び・より深い学びにするための取り組み

- ・この専攻では、2年生・3年生を通して、身近な地域企業の課題を解決するという目標のもと、そのために必要な知識を学びます。
- ・学んだ知識は、実際に企業の皆さんへの提案や課題解決の実践につないでいくことにより、「情報」「ビジネスの知識」が地域や世界でどのようにつながるかを体系的に理解します。

# 普通科ALコース スポーツ専攻

## ○この専攻の学びの特徴

- ・スポーツと地域社会のつながりを理解することによって、自分らしいスポーツとの向き合い方を考えます。特にアスリートとしての関わり他、「スポーツを支える」視点、そして「スポーツを行う場をつくる」という経験をもとに、より幅広い視点でスポーツを理解することで、自分を含め、より多くの人より豊かなスポーツライフにつながる学びを実践します。
- ・スポーツにおいてよりよいプレーを行うためには、競技特性に応じたトレーニングが必要不可欠です。筋・骨格の構造、エネルギー供給等のメカニズムを学ぶとともに、競技特性に応じたトレーニングの基本を学び、それぞれのパフォーマンスの向上につなげます。

## ○教科・科目概要

2年生		3年生	
スポーツ概論 (2単位)	日々進歩しているスポーツに関する幅広い知識を理解できるよう、その核となる理論を学びます ・スポーツの文化的特性とスポーツの発展 ・豊かなスポーツライフの設計の方法 ・スポーツの多様な指導法と健康・安全	スポーツ科学特論 (2単位)	客観的根拠に基づくコーチング、求められるコーチ、指導者としての資質・能力を高めるための理論を学びます ・コーチングスキル ・スポーツ指導法 ・健康スポーツ ・子どもとスポーツ ・スポーツとまちづくり
トレーニング論 (2単位)	試合でのベストパフォーマンスに導くコンディショニング法を身に着けます ・スポーツテストの目的・結果分析 ・目的に応じたトレーニングの実践 ・トレーニングメニューの作成 ・メンタルトレーニング講習	スポーツ総合演習 (4単位)	実際のスポーツ現場に必要な知識を学び、それをさまざまな実践活動につなげます。 ・多様な目的に応じた指導法 ・さまざまなスポーツ教室の企画・運営 ・スポーツツーリズム

## ○より実践的な学び・より深い学びにするための取り組み

- ・この専攻では、専修大学スポーツ研究所、アスレチックトレーナー、理学療法士、柔道整復師、管理栄養士など、スポーツの現場で活躍する外部講師と連携し、より現場に近い視点で最新のスポーツ理論を学びます。
- ・認定こども園北上幼稚園や総合型地域スポーツクラブSVきたかみ、そしてスキー場等とも連携しながら、地域でのさまざまなスポーツ教室やスポーツイベントの企画など、スポーツの場をつくることを実践します。
- ・トレーニング論を含め、スポーツを体系的に学び、様々なスポーツへのアプローチを理解し、さらにそれを実際の自分のトレーニング、そしてアスリートとしてのパフォーマンスと関連付けることでより深い学びにつながります。

# 取り組み③：DXによる学びの深化と負担軽減（本校独自事業）

学びの改革に向けては、デジタル技術の活用による個別最適化に向けた取り組み、そして教員の負担軽減が必要不可欠であると考えます。

本校では、独自事業として「専北DX（デジタルトランスフォーメーション）」の取り組みを立ち上げ、以下の取り組みを行いました。

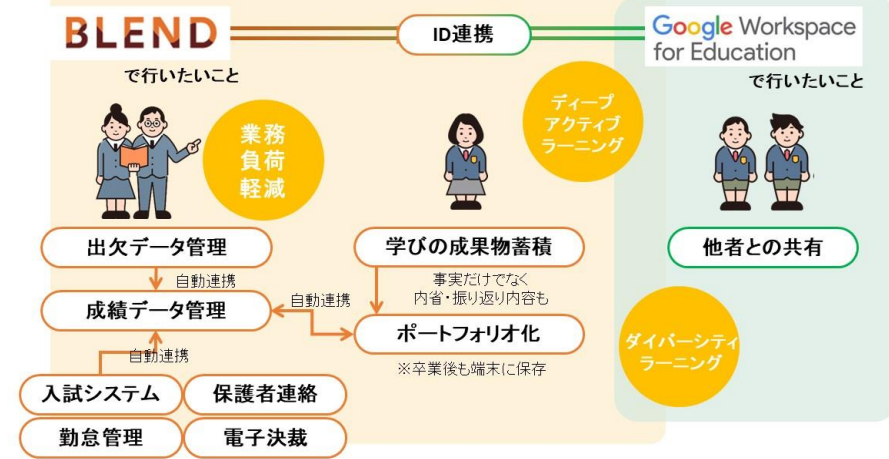
- ・現在の教職員の業務課題の洗い出し
- ・上記に基づく、本校としての目指すべきかたちの整理
- ・目指すべきかたちの実現に向けたシステムの選定
- ・そのシステムがより効果的に活用されるための環境整備

この検討をもとに、これまで出席管理・成績管理・生徒連絡・保護者連絡・入試管理等がバラバラで運用されていたものを1つのシステムで統合したほか、紙ベースであった朝学習課題のデジタル化、授業支援システムの採用など、業務改善と1人1台端末に対応した新しい仕組みの構築につなげました。

次年度より本格導入となり、今後、評価・改善を繰り返しながら、本校の学びの改革に対応したデジタルの活用を進めていきます。

①生徒課題抽出 ②教員課題抽出 ③システム提案 ④生徒学習ツール提案 ⑤直近アクションプラン

統合型校務支援システム「BLEND」と「Google Workspace for Education」の2つのシステムのかけ合わせで様々なデータを統合管理可能に。



A 一斉学習	B 個別学習	C 協働学習
<p>A1 教員による教材の提示</p> <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>B1 個々に応じる学習</p> <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p>C1 発表や話し合い</p> <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>
<p>B3 思考を深める学習</p> <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>B2 調査活動</p> <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p>C2 協働での意見整理</p> <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
<p>B4 表現・制作</p> <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p>B5 家庭学習</p> <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p>C3 協働制作</p> <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>
		<p>C4 学校の壁を越えた学習</p> <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>



# 「SENTAN-専探-」

課内・課外連携型社会に開く探究プログラム

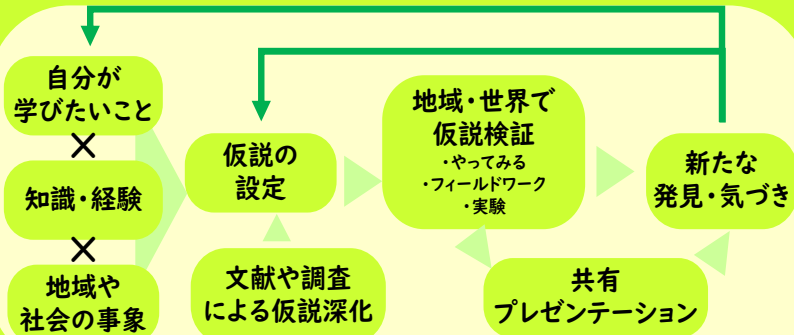
必修で得られる探究的な視点  
さまざまな「知」をつなげる視点

新しく生まれる  
専門的な「問い」

「問い」に対して向き合う  
学びを社会につなげる  
⇒興味をとことん掘り下げる

## 課内

総合的な探究の時間での  
社会に開いた「探究スパイラル」



各教科・科目での専門的・探究的な学び

自動車科 商業科 情報科 家庭科 英語科 芸術科 保健体育科 理科 数学科 地歴公民科 国語科

「仮説」  
「問い」  
「知的  
欲求」

## 課外

「専北塾」探究プログラム

<専門性を高めるプログラム(例)>

- ・起業塾・ビジネス講座
- ・トレーナー養成プログラム
- ・介護職員初任者研修
- ・アカウンティング講座
- ・3DCAD講座
- ・インターナショナルゼミ
- ・企業からの寄付講座
- ・教科専門性を磨くアカデミックゼミ

<社会に開くプログラム(例)>

- ・中期インターンシップ
- ・地域と連携した探究ワークショップ
- ・大学・研究機関での共同研究
- ・総合型地域スポーツクラブとの連携

課内・課外での  
社会に開いた  
探究連携

専門性を  
持つ教員

北上市

専修大学

石巻専修  
大学

福祉教育  
専門学校

市内  
事業所

NPO

SENTANは  
自己満足の答えではなく、

「他者も納得する  
答えを創る」時間

⇒これが未来を創ること

# 答えをどうやって創るか

⇒ 答えを創る材料は

- ・ 自分の知識・経験
- ・ さまざまな情報

これを自分の創造で組み  
合わせることで答えになる







# 評価体系構築:専修大学北上高校2022年度「8つのカルーブリック」によるアセスメント

ディプロマポリシーの明確化とカリキュラム改革に基づき、卒業までに身に付けるべき力・姿勢の明確化と教員・生徒による双方向での評価の仕組みが必要となります。

この8つの力はそれぞれの教科や活動を統合する役割もっており、教員・生徒がそれぞれの教科・科目をなぜ学ぶかを共有することであり、校内における「大切な価値」の共有、それに基づく授業・活動の実践につなげます。

## 専大北上高校『8つの力』ルーブリック

ディプロマポリシー ※卒業認定の方針	卒業までに身に付ける 8つの資質・能力・姿勢		ルーブリック(8つの項目それぞれで一番当てはまるものに○をしてください)				
			AA	A	B	C	D
健全な心身のもと、自分の資質をより伸ばそうとする力	自律	自分の言動や行動に責任を持ち、自ら考え、次の行動や、将来の夢に繋げることができる。	社会の中での自分の役割・責任を認識したうえで、自分の将来や夢に向かって考え、行動することができる	自分の将来につながる目標を設定でき、それに向け自ら考え行動できる	1つ1つの取り組みごとに目標を立てられ、達成できるように、自ら考え行動できる	自分自身で目標を立てることができる	他者から言われた目標を受け入れることはできる
	チャレンジ	自分を意味ある存在として考え自信を持ち、さまざまな事象に対して、自分の役割を見つけ、全力で取り組むことができる。	たくさんの失敗を活かし、さまざまな状況において当事者性を持ち、全力で、自分らしく取り組むことができる	たくさんの失敗を繰り返した経験をもとに、新しくチャレンジしたいことが生まれている	失敗するかもしれないことに対して、自らチャレンジすることができる	自分がチャレンジしたいことがある	他者から言われたことは取り組める
多様なちがいを尊重し、誰とも繋がれる力	寛容性	自分とはちがう視点、考え方も持つさまざまな背景を持つ者を受け入れ、さらに協調して共に高めようとする事ができる。	ひとりひとりのちがいを尊重し、そのちがいは自分や社会をより良くしていくために必要なものとして大切にできる	考え方、文化、容姿などさまざまなちがいを大切にすることができる	考え方、文化、容姿などさまざまなちがいを受け入れることができる	集団や他者との関係の中で、他者を気づかえる	仲の良い特定の他者のみ、気づかうことができる
	コミュニケーション	自分の考えを発信でき、相手の考えを聴くことで、双方の共感を引き出せる。	それぞれの人が理解できるように伝えられ、また、相手の考えを引き出し、共感を得ることができる。	相手に合わせて自分の考えを伝えられ、また相手の話も引き出すことができる	自分の意見や考えを相手に合わせて伝えることができる	自分の意見や考えを、相手に伝えることができる	仲の良い特定の他者のみ、自分の考えを伝えることができる
将来の夢の実現に向け、深く考え行動できる力	思考力	未知の状況があっても、さまざまな情報を集め、論理的に整理し、さまざまな可能性を検討することができる。	未知のことについても粘り強く考え、これまでの常識にとわられず、情報を整理・統合し、多面的に可能性を検討することができる	未知のことについて、さまざまな情報を調査・整理・統合し、解を検討することができる	1つの情報を鵜呑みにせず、さまざまな情報を自ら集め、解を検討できる	与えられた情報を整理・統合できる	与えられた情報を整理することはできる
	創造力	地域や世界の課題に対して、好奇心を持って試行錯誤し、自分らしい新たな解を創ることができる。	地域や世界のさまざまな課題に対して、自分が培ってきた知識・技術や他者の考えを活かし、試行錯誤しながら新しい解を創ることができる	さまざまな課題に対して、自分の知識・関心とさまざまな知識・情報を組み合わせ、解をつくりだすことができる	さまざまな課題に対して、自分の知識・関心を活かして解をつくりだすことができる	自分が興味ある課題に対して、自分の知識・関心を活かして解をつくりだすことができる	特定の課題に対して、解を考えることができる
地域、そして世界の様々な課題に対して、常に当事者意識を持ち、解決に向けて向き合う力	社会に対する当事者性	社会を支える当事者としての意識を持ち、未来を創る担い手としての自覚を持ち、様々な課題に向き合うことができる。	よりよい未来をつくることに対する意欲があり、さまざまな課題に対して、積極的に向き合うことができる	社会のさまざまな事象を自分事としてとらえ、他者のために行動することができる	社会のさまざまな事象を自分事として考えることができる	所属するさまざまな集団の一員としての自覚を持ち、行動できる	自分の好む集団の中では、主体的な行動ができる
	地域・世界の課題に関する知識・理解	多様な分野を学ぶことで、地域や社会の成り立ちを理解し、その課題を解決するための知識を身に付けている。	これまで深く学んだ多様な分野の知識・技術をもとに、さまざまな地域や社会の課題に対する解をつくりだすことができる	学校で身に着けた知識・技術とさまざまな地域や社会の課題をつなぎあわせることができる	学校で身に着けた知識・技術が地域や社会にどのようにつながるかを理解している	地域や社会を考える上での基本的な知識が身に付いている	地域や社会のことは少しは知っている

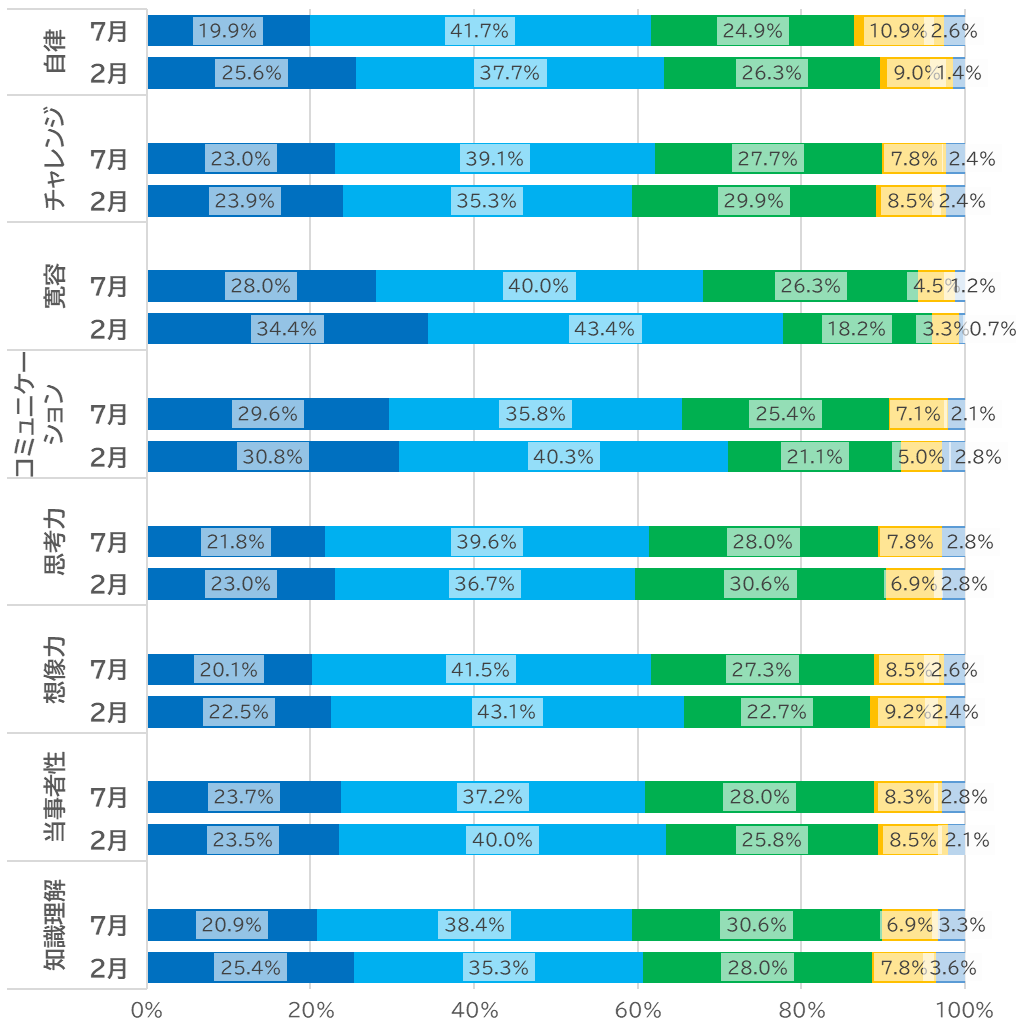


# 専修大学北上高校2022年度「8つのカテゴリー」全体の推移

2022年7月と2023年2月に実施した8つのカテゴリーに基づくアセスメントの推移を示したのが以下のグラフです。  
 寛容性やコミュニケーション、想像力等が伸びた一方、チャレンジや思考力は全体的な向上は認められませんでした。  
 この結果はあくまで全体データであり、各生徒の個票を作成し、個別フィードバックすることで、それぞれの次の学びにつなげます。

専大北上高校2022年度カテゴリーの変化

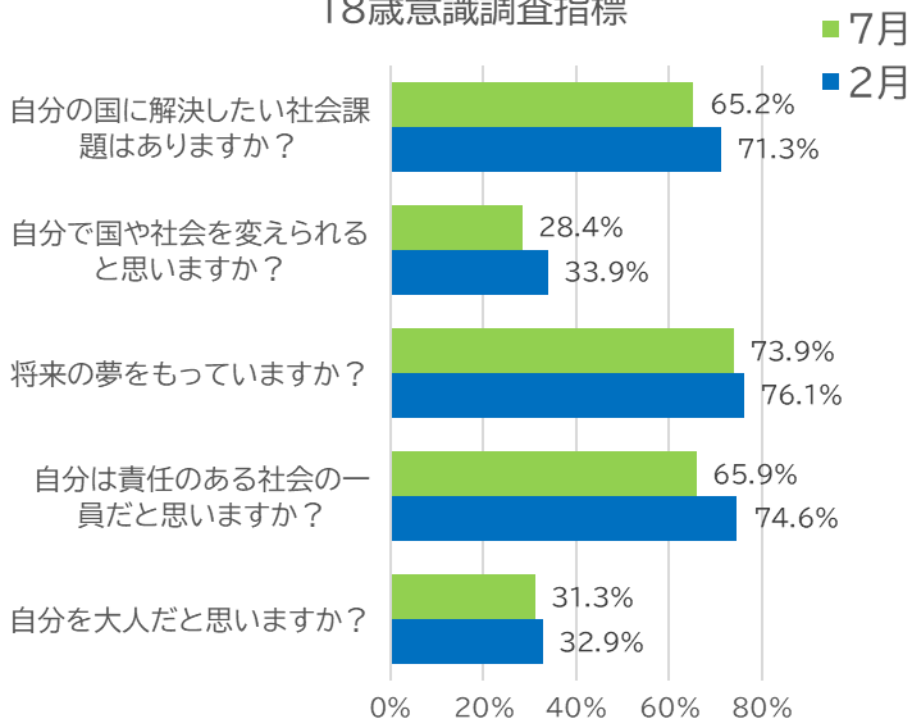
■ AA ■ A ■ B ■ C ■ D



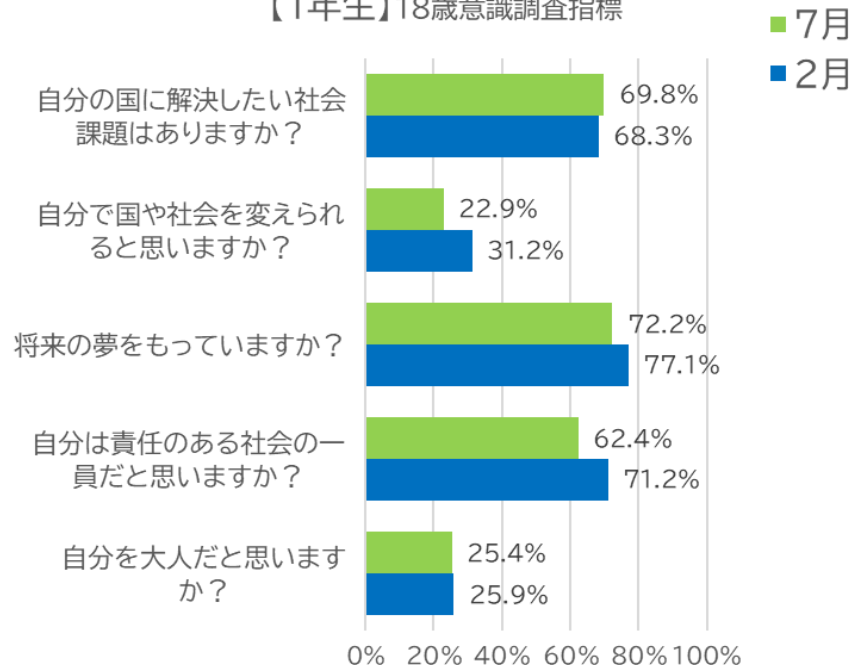
8つの力	学年	実施月	AA		A		B		C		D	
			n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
自律	1年生	7月	42	20.0%	87	41.4%	45	21.4%	29	13.8%	7	3.3%
		2月	46	21.9%	76	36.2%	61	29.0%	23	11.0%	4	1.9%
	2年生	7月	42	19.8%	89	42.0%	60	28.3%	17	8.0%	4	1.9%
		2月	62	29.2%	83	39.2%	50	23.6%	15	7.1%	2	0.9%
チャレンジ	1年生	7月	49	23.3%	81	38.6%	57	27.1%	18	8.6%	5	2.4%
		2月	42	20.0%	68	32.4%	72	34.3%	24	11.4%	4	1.9%
	2年生	7月	48	22.6%	84	39.6%	60	28.3%	15	7.1%	5	2.4%
		2月	59	27.8%	81	38.2%	54	25.5%	12	5.7%	6	2.8%
寛容	1年生	7月	56	26.7%	86	41.0%	55	26.2%	10	4.8%	3	1.4%
		2月	65	31.0%	90	42.9%	44	21.0%	9	4.3%	2	1.0%
	2年生	7月	62	29.2%	83	39.2%	56	26.4%	9	4.2%	2	0.9%
		2月	80	37.7%	93	43.9%	33	15.6%	5	2.4%	1	0.5%
コミュニケーション	1年生	7月	64	30.5%	71	33.8%	48	22.9%	21	10.0%	6	2.9%
		2月	54	25.7%	81	38.6%	51	24.3%	16	7.6%	8	3.8%
	2年生	7月	61	28.8%	80	37.7%	59	27.8%	9	4.2%	3	1.4%
		2月	76	35.8%	89	42.0%	38	17.9%	5	2.4%	4	1.9%
思考力	1年生	7月	46	21.9%	81	38.6%	54	25.7%	21	10.0%	8	3.8%
		2月	44	21.0%	77	36.7%	65	31.0%	17	8.1%	7	3.3%
	2年生	7月	46	21.7%	86	40.6%	64	30.2%	12	5.7%	4	1.9%
		2月	53	25.0%	78	36.8%	64	30.2%	12	5.7%	5	2.4%
想像力	1年生	7月	43	20.5%	93	44.3%	47	22.4%	21	10.0%	6	2.9%
		2月	38	18.1%	84	40.0%	55	26.2%	27	12.9%	6	2.9%
	2年生	7月	42	19.8%	82	38.7%	68	32.1%	15	7.1%	5	2.4%
		2月	57	26.9%	98	46.2%	41	19.3%	12	5.7%	4	1.9%
当事者性	1年生	7月	55	26.2%	73	34.8%	56	26.7%	19	9.0%	7	3.3%
		2月	44	21.0%	82	39.0%	59	28.1%	19	9.0%	6	2.9%
	2年生	7月	45	21.2%	84	39.6%	62	29.2%	16	7.5%	5	2.4%
		2月	55	25.9%	87	41.0%	50	23.6%	17	8.0%	3	1.4%
知識理解	1年生	7月	45	21.4%	80	38.1%	59	28.1%	17	8.1%	9	4.3%
		2月	44	21.0%	71	33.8%	66	31.4%	20	9.5%	9	4.3%
	2年生	7月	43	20.3%	82	38.7%	70	33.0%	12	5.7%	5	2.4%
		2月	63	29.7%	78	36.8%	52	24.5%	13	6.1%	6	2.8%

## 資料② 日本財団18歳意識調査項目 ※「はい」の割合

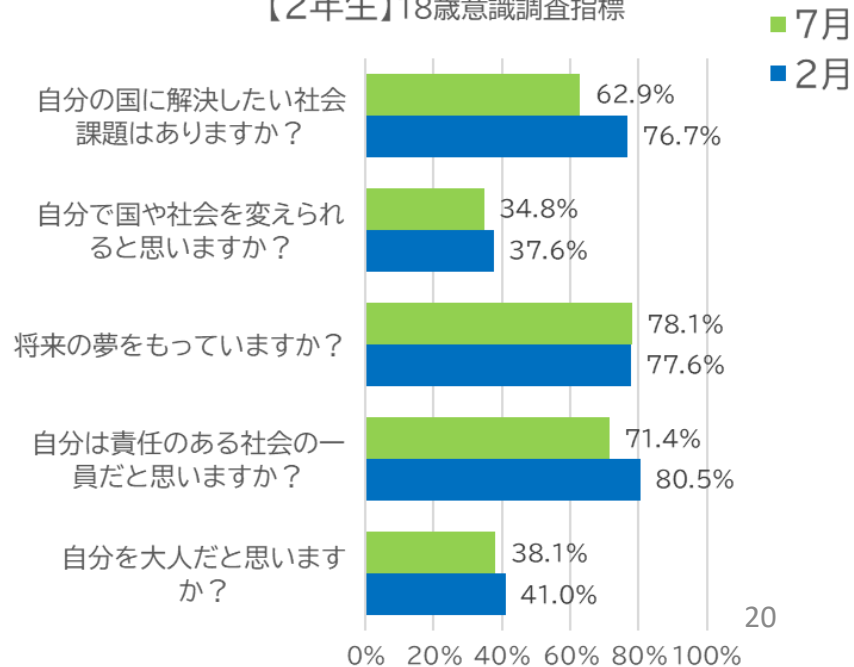
### 18歳意識調査指標



### 【1年生】18歳意識調査指標



### 【2年生】18歳意識調査指標



<参考:日本財団2019年18歳調査から抜粋>

	自分を大人だと思う	自分は責任のある社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を変えられると思う	自分の国に解決したい社会課題がある
日本 (n=1000)	29.1%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%
インド (n=1000)	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%
インドネシア (n=1000)	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%
韓国 (n=1000)	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%
ベトナム (n=1000)	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%
中国 (n=1000)	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%

# 専北の「学び」 3つの柱 ～未来を創る力へ～

## ダイバーシティ ラーニング

多様な視点・それぞれの  
ちがいを大切にした学び

## アクティブ ラーニング

学ぶことそのものを楽しみ  
豊かな出会いの中で  
前向きにチャレンジする学び

## ディープ ラーニング

自らが課題の本質を見出し、  
解決に向けた具体的な行動に  
つながる学び





2C

